

平成28年11月14日

豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

議員名 後藤 学 

H28年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
H28年10月17日 (月)	市川市	PFI事業について (学校施設複合化)
H28年10月18日 (火)	富士市	富士市・富士宮市情報指令センター について
H28年10月18日 (火)	菊川市	子ども議会・議会報告会について
H28年10月19日 (水)	島田市	図書館自動貸し出しシステム について

豊明市議事課
28.11.14
分類 . . . 30・10・5・1
可・否・一部否・一時否
第 648 号 受付

(注) 別紙添付も可能とします。
(注) 本報告書は5年間公開します。

新風とよあけ会派視察報告書

後藤 学

千葉県市川市 (H.28.10.17 視察)

1.市の概要

県の西部、江戸川を挟んで東京都に隣接し、ベッドタウン化が進んでいるが、歴史的遺産も多く各種教育・文化施設も整備された文教都市。人口 460,559 人、市の面積は 57.45 km²。

美しい景観、福祉の充実と生活の安定、行財政改革による安定経営を掲げてまちづくりを推進する。歳出決算総額 1,290.35 億円、財政力指数は 1.00。

2.視察テーマ「PFI 事業」について

- ・この事業は、老朽化した中学校舎と給食室の建て替えに際し、地域ニーズの高い公会堂、保育園を併設した複合施設を整備し、維持管理を行うものである。

- ・また、この施設には、別の PFI 事業としてケアハウス、デイサービスセンターも併設され 2 つの PFI 事業で構成されている。

- ・PFI 導入にあたっては、公募型プロポーザルにより日本経営システム (株) を選定し、導入可能性調査を実施した。

- ・議会に関しても、債務負担行為や契約が議決事項となるので、財政支出の削減可能性 (VFM)、民間業者による包括的管理のメリット、官民のリスク分担の合理性等を説明したが、民間事業者への長期一括発注によるコストダウンに理解があり、合意形成ができた。

- ・地元住民に対しても、「地域とのふれあい、教育環境上での相乗効果」をふまえたコンサルの提案をベースに、きめ細かい説明会を行い最終決定した。

- ・設計・建設段階での民間事業者の業務実施状況の監視は専門業者に委託したが、性能発注による要求水準書の作成には内部議論と伝達徹底が必要。

- ・PFI の導入は、民間ノウハウの活用、26%もの事業費の削減などメリットは大きかったが、公平性・透明性を確保した事業者選定手続きは大変だった。

3.視察の所感

もともと PFI には懐疑的であったが、この視察でそれは払しょくできなかった。「民間の創意工夫やノウハウ」は、市と業者の丁寧な協議や利用者 (市民) の声の反映に勝るのか。「26%の事業費削減は」談合のできない一般競争入札とどう比較した数値なのか。「市財政支出の平準化」は、起債でも同じではないか…等々。国は PFI を推奨しているが、豊明での採用は慎重であるべきと思った。

静岡県富士市 (H.28.10.18)

1. 市の概要

県東部の中核都市で、東名・新東名の IC、新幹線新富士駅、田子の浦港などを持つ交通の要衝。製紙産業をはじめ、輸送用機械・化学・電気などが立地する県下有数の工業都市である。人口 253,283 人、面積は 244.95 km²。

第 5 次総合計画に基づき、都市活力再生戦略の理想とする「まちが元気で、産業経済が成長し、暮らしも充実する好循環が構築された富士市」の実現を目指す。歳出決算総額 856.07 億円、財政力指数は 0.99。

2. 視察テーマ「富士市・富士宮市情報指令センター」について

- ・富士山麓・岳南地域として深い関係にある富士市・富士宮市は、平成 26 年に消防通信指令事務協議会を設置し、業務の共同運用に向けた準備をはじめた。
- ・平成 27 年 9 月、最先端の技術を駆使した高機能消防指令システム、及び消防救急デジタル無線設備を導入した消防指令センターが完成。業務を開始した。
- ・「統合型位置情報通知システム」では、通報者から住所や目標物などを聴取しなくても、通報場所の自動特定が可能となり、出勤に要する時間が短縮された。
- ・「出動車両運用管理装置」により、GPS でリアルタイムに消防・救急車両の活動状況を把握。災害現場に最も近い位置の車両が最短時間で現場到着できる。
- ・「メール指令設備」で消防団員にも E メールで出場指令を自動的に一斉配信でき、団員は文字と地図で発生場所が確認できる。
- ・「車両運用端末装置」では、車両にしながら指令情報や地図情報、道路障害・水利情報等が検索・閲覧でき、消防業務を効率的に行うことができる。
- ・大規模災害時など通報が集中する状況下では、「大規模災害モード」に切り替え、指令台を増強して的確・迅速に処理できる受け付け体制が確立している。
- ・「NET・FAX119 受信設備」は、聴覚や音声・言語機能障がいのため音声通報が困難でも、携帯電話や FAX で 119 番通報できる装置。NET119 は GPS の位置情報で通報場所を特定できる。

3. 視察の所感

富士市・富士宮市地域は火災や交通事故のほかに、地震、津波、富士山噴火、富士川氾濫などあらゆる災害が想定されるだけに、防災体制が確立されていると感じた。豊明市でも消防広域化が進みつつあるが、今後の展開を注視していきたいと思う

視察の眼目、MCA 無線による災害現場からの画像伝送については、動画は難しいのが実情だが、ネットも使えない状況では役立つとのことであった。

静岡県菊川市 (H.28.10.18 視察)

1.市の概要

平成17年、小笠町と菊川町が合併し誕生。県の中西部に位置し温暖な気候で、お茶づくりが盛ん。市内に JR 菊川駅や東名高速 IC、近隣には新幹線掛川駅、御前崎港、富士山静岡空港があり交通至便。人口 45,346 人、面積は 94.19 km²。

第1次総合計画の最終年度を迎え、「魅力の向上・発信」、「地域の元気・活力」、「市民の安全・安心」を重点テーマに「みどり次世代」の実現をめざす。歳出決算総額 176.83 億円、財政力指数は 0.74。

2. 視察テーマ「子ども議会・議会報告会」について

- ・子ども議会は、模擬議会の体験を通じて議会や市政に関心を持ってもらう、子どもたちの自由な意見を聞いてまちづくりの参考とすることを目的に実施した。
- ・市議会が主体となり、市、教育委員会が協力して実施。子ども議員（小学6年生）17名、市長、教育長、各部長が参加した。
- ・当日は、子ども議長の進行で、議長・市長あいさつ、子ども議員4～5名ずつ意見発表、そのつど市長講評、教育長全体講評の順に行った。
- ・実施したことで開かれた議会への一助となった。こども、傍聴者とも初めて議場に入る人が多く好評だった。一般質問ができるかは今後の課題。
- ・議会報告会は市内11カ所で行っており合計で500人近い参加者がある。議員は4班に分かれ1カ所あたりの担当は4～5名である。地元議員は入れない。
- ・参加者を増やすために地域の広報を利用したり、議員が口コミで勧誘したりしている。女性の参加のために、隣の児童館で子供の面倒を見たりした。
- ・報告テーマは「農業・茶業の課題と戦略」、「原発再稼働の請願」、「保育料の見直し」、「健康づくりで医療費の抑制」（平成28年度）など生活密着課題である。
- ・成果のまとめでは、「土曜日開催で参加拡がった」、「地域要望が減ってきた」、「行政報告にならないように」、「市民と一緒に考えるべき」などいい意見がでた。
- ・議会基本条例に基づき、「人口減少」や「公共交通機関」などのテーマについて政策討論会を行い、政策提言書をまとめて市当局に提言している。

3.視察の所感

子ども議会については、豊明市で行う場合、議員による指導や学校教育との連携をおこなうこと、参加者（子ども議員やその保護者）以外に広げることが重要と感じた。

議会報告会は、回数、参加者の多さ、市民意見のレベルの高さに圧倒された。議会の政策討論に基づく政策提言も、豊明でもそういうレベルをめざしたい。

静岡県島田市 (H.28.10.19)

1.市の概要

平成17年、島田市と金谷町が合併し、島田市が誕生。3年後には川根町を編入合併し人口10万人超となる。市域は、南アルプスに続く山地、大井川扇状地、牧之原台地からなる。人口100,021人、面積は315.70km²。

牧之原台地のお茶と、蓬萊橋、川越遺跡、旧東海道石畳等とのネットワーク化を図り、お茶の歴史と文化を情報発信する。コミュニティFM放送の活用、富士山静岡空港周辺プロジェクト、新東名島田金谷ICプロジェクトなど、活気ある街をめざす。歳出決算総額370.54億円、財政力指数は0.76。

2.視察テーマ「図書館自動貸し出しシステム」について

- ・はじめに図書館の概要について説明を受けた。市内に3館あるのは、市域が広いことと3町村の合併によるものと思われる。

- ・一般書フロアと児童書フロアが分かれていて、子どもたちが騒いでもほとんど問題にはならない。

- ・平日開館時間は午前9時30分～午後8時00分と長く、通勤帰りの利用に便利。職員の時差出勤によるローテーションで運営している。

- ・自動貸し出し機は小型冷蔵庫くらいの大きさで場所も取らず、子どもにも使用でき、病気などプライバシー保護には都合がよい。

- ・導入による省力化でレファレンス等のサービス向上といった変化は特にない。使い方の説明や貸し出しエラー（カード期限切れ等）時の対応は増えた。

- ・子ども読書推進のため「読書通帳」（通帳に読書記録が印字され、残る）を導入した。約4,000件交付。6社から150万円のスポンサー料をいただいている。

- ・子どもが触る本にウィルスや雑菌の付着を気にする親がいることから、除菌ボックス（紫外線で殺菌）を導入した。

- ・近隣の「島田市こども館」も見学。乳幼児親子・小学生が様々な遊具で安全に遊べる。2時間小学生100円、大人100円（市外200円）。年間約13万人利用。

3.視察の所感

自動貸出機は、カウンターでの待ち時間短縮、プライバシー保護などの面でメリットがあるが、人件費削減、サービス向上の効果はコストも考えると限定的か、と感じた。BDS（盗難防止システム）や読書通帳機、除菌ボックス導入、職員ローテーションによる開館時間延長など、サービスは工夫が凝らされている。

しかし、何より驚かされたのは、図書館の生命といわれる図書購入費が、豊明市の2.5倍近いこと。図書館行政は根本的な見直しが必要であると痛感した。